

大日如来坐像

ダイニチニョライザゾウ



指定日：昭和56年(1981)3月25日 種別：彫刻

ヒノキ材の寄木造り。表面仕上げは漆箔であったと考えられるが、現在は金泥が塗られている。江戸期の補修によるものだろう。基底部の内側は浅く刳られているが、その中央の身部の内刳に通じる部分は板をはりつけて閉じられている。寺伝によると、智拳印を結ぶ大日如来坐像は、元禄11年(1698)に備前国庄田山朝日寺(岡山県瀬戸内市邑久町)の大塔より西広寺に移されたものといわれている。製作期は室町時代とみられる。